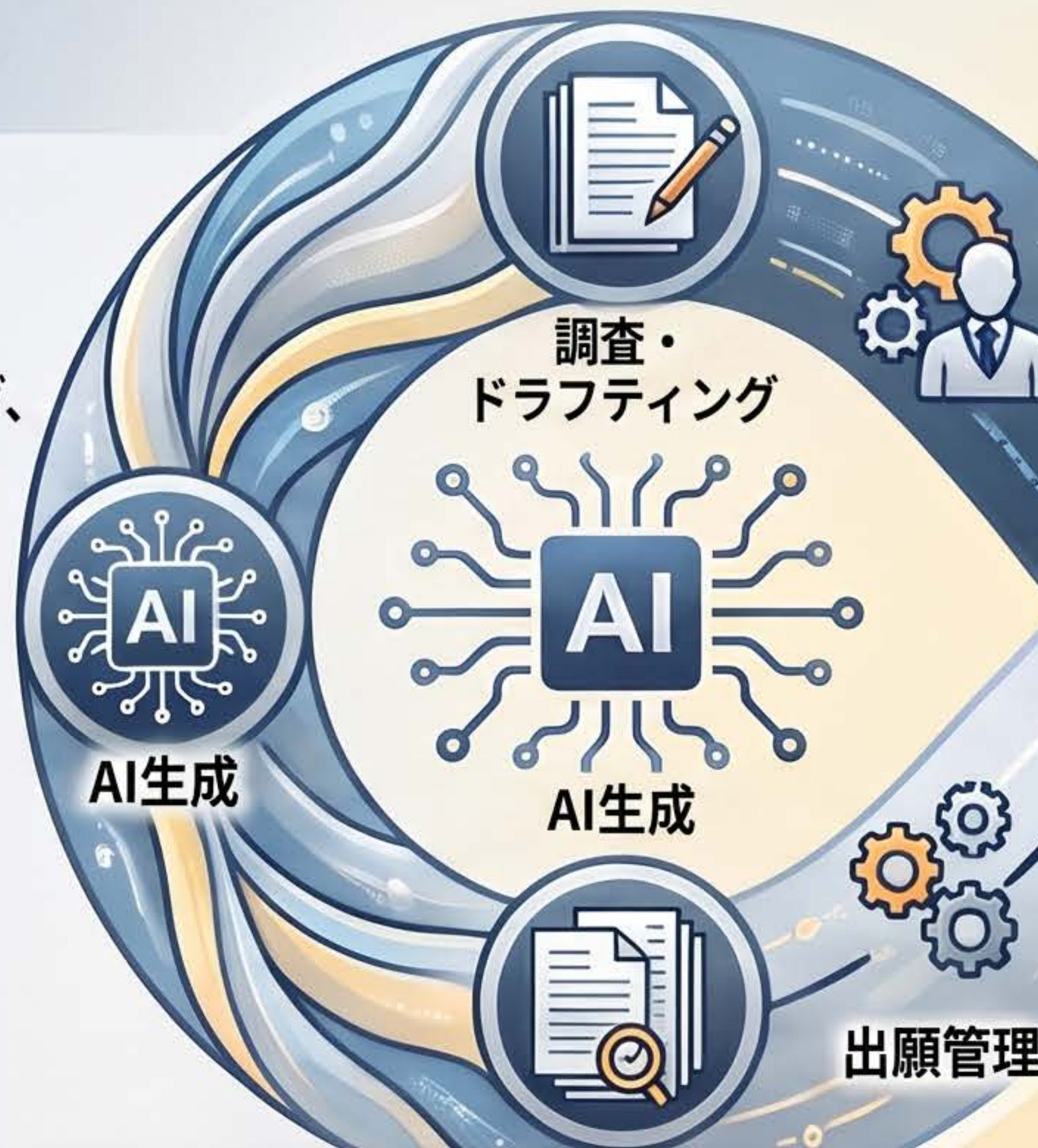


AI時代の知財実務：「作成」から「検証・統制」へのパラダイムシフト

以前：作成重視の時代
(AI をツールとして)

役割：「作成部門」
効率的な作成
焦点：従来の重点業務
(文献レビュー、ドラフティング、
出願的、件数、
年次監査)

AIは個々のタスク
を加速 (4倍速)



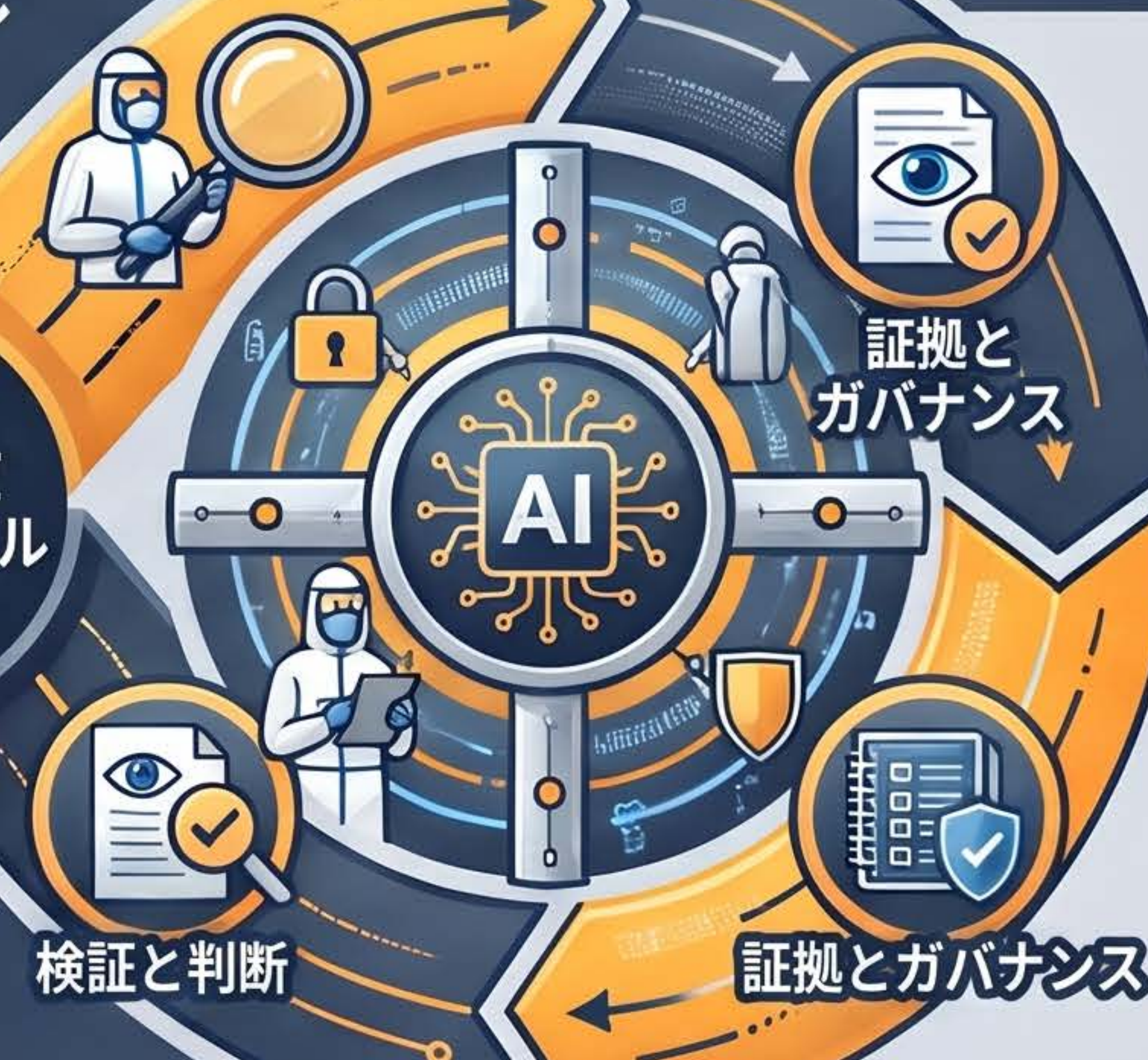
知的財産
ライフサイクル

知的財産
ライフサイクル

以後：検証・統制の時代
(AI をリスクと機会として)

役割：「検証・選別・統制部門」
厳格な監視
焦点：2026年以降の重点業務
(検索妥当性、情報源検証、
発明者証拠、四半期動的評価)

組織的なスピード
(<2 倍速) は物理的検証と
意思決定における人的
ボトルネックによる



知財部門の役割の劇的变化

FROM: 「作成部門」



AIによる大量生成を前提に、人間は法的判断と証拠の真正性確認に注力する。
物理的検証や意思決定がボトルネックとなり、人の「目利き」の価値が相対的に高まる。

TO: 「検証・選別・統制部門」



物理世界との接点を厚く保護。AIが容易に生成できる「デジタル工程」より、合成・製造・評価等の「物理的ノウハウ」を権利化の軸に据える。

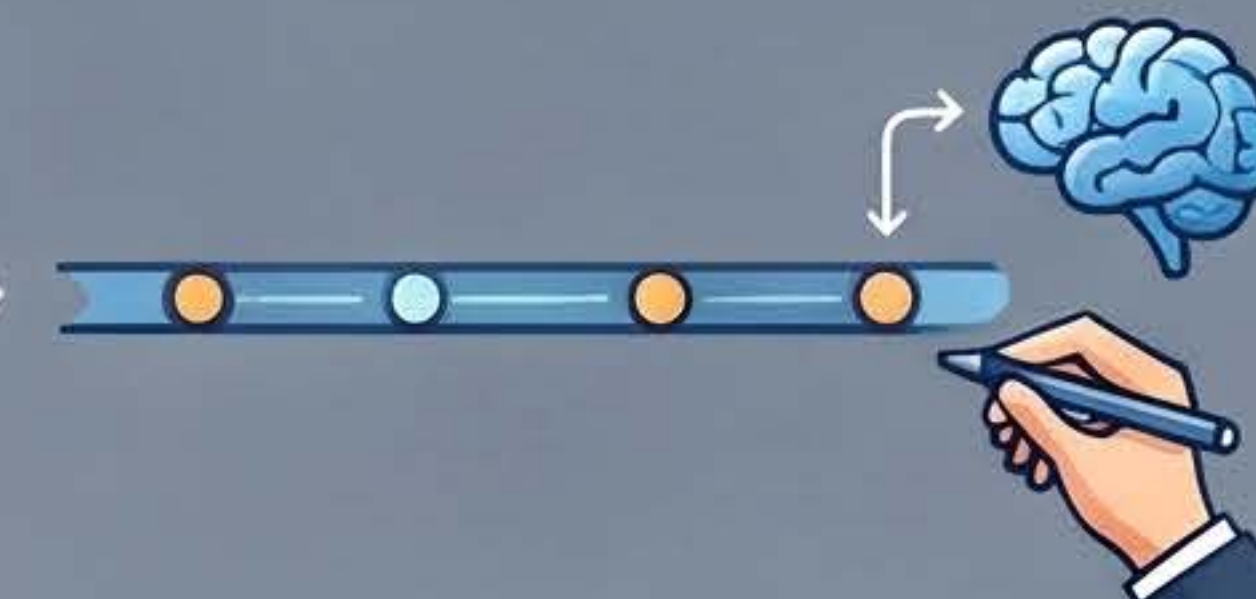
不可逆リスクを防ぐ「AIガバナンス」

PROCESS STEP:
不可逆行為には「二者承認ゲート」



出願、放棄、期限変更、外部送信などの法的行為をAIに自律実行させない。

DEFINITION:
「発明者性」の厳格な証拠化



AI利用の有無ではなく、各請求項に対する「自然人の実質的寄与」を時系列で記録する。

KEY FINDING:

独立した「異システムモデル」による
クロスチェック



同一モデルによる自己レビューを避け、人、一次資料、別系統AIを組み合わせ検証する。